

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 綴文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 519
2019年7月

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

ま・く・じ

- あの山の向こうに ③ 2
- 『気仙大工...』への感想 ④ 4
- 日本は 46 都道府県? 7
- 「越乃 Shu * Kura」春日城 8
- 『ヤンキーと地元』ほか 10
- 古便利から 13
- 『ネーミングにだまされています』 16
- 山仕事 (5月、大平) 19
- 法師也 春雪ラッセル 20
- 山仕事 橋を架ける 22
- 山仕事 (6月、架橋と木の丸) 23
- け・い・じ・ぱ・ん 26

人口750万人の香港が
103万人(6月9日) {主催者
200 (6月16日) } 発表
のデモで「北犯条例」
改定反対の意志表示。

日本は?

「タンカーは自国で守れ」
日米安保破棄?
常軌を逸した
トランプ氏の振舞い。
日本は盲従でいいの?

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

2019年3月までの 毎月 ²⁵⁰円 ~~200~~円 冊を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 申し込み込んで下さい。

6月26日 現在の
会員数 247名

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、

近代測量150年

山仕事(5月、大平)

5月23日(木)、快晴。伊藤(康)、原田、山崎さんとぼく。正士、久米さん出迎之。
 今日は終始草刈り。春の草刈りは楽しい。草はやわらかく蚊などもいない。
 初日は田んぼの畦畔、ソバ畑の草を刈る。(右図下の方)

夕食は、康江、久米さんの手で、ネギの牛肉巻き、淡竹(はち)とさつま揚げ(紀文)の煮物、ぼんじり(鶏の尻、脂が多い)の串焼き、アジの南蛮漬け(久米さん持参)、新タマネギとタイのカレパッチョ、枝豆、葉ショウガ、ミョウガタケの醤油漬け(山ちゃん持参)に正士さんの手打ちソバと久米さんのだしとがし。体調の悪いまくに、久米さんが焼きニンニクを。

たしかに体調が悪かった。少し熱っぽく、0.2本い
 ない右上の歯肉が腫れて、豆腐以外はよく噛めない。
 それに、よく足がツル。要するに、秋葉路自転車旅の疲れが出たのだ。

5月24日(金)、快晴。初めに桶ヶ沢の草刈り。次に
 権現谷(ごんげんや、家康が武田勢に敗れて逃げこんだという)。

昼食は、庭にテーブルを並び、明日が誕生日というお母
 さんの日祝い。特製稲荷寿司、イワシのキッシュ、シヤマンサラダ、
 すまし汁にフルーツ寄せ。テーブル中央には久米さんの庭に咲
 いた花々。久米さんの指揮で♪ハッピーバースデー。①

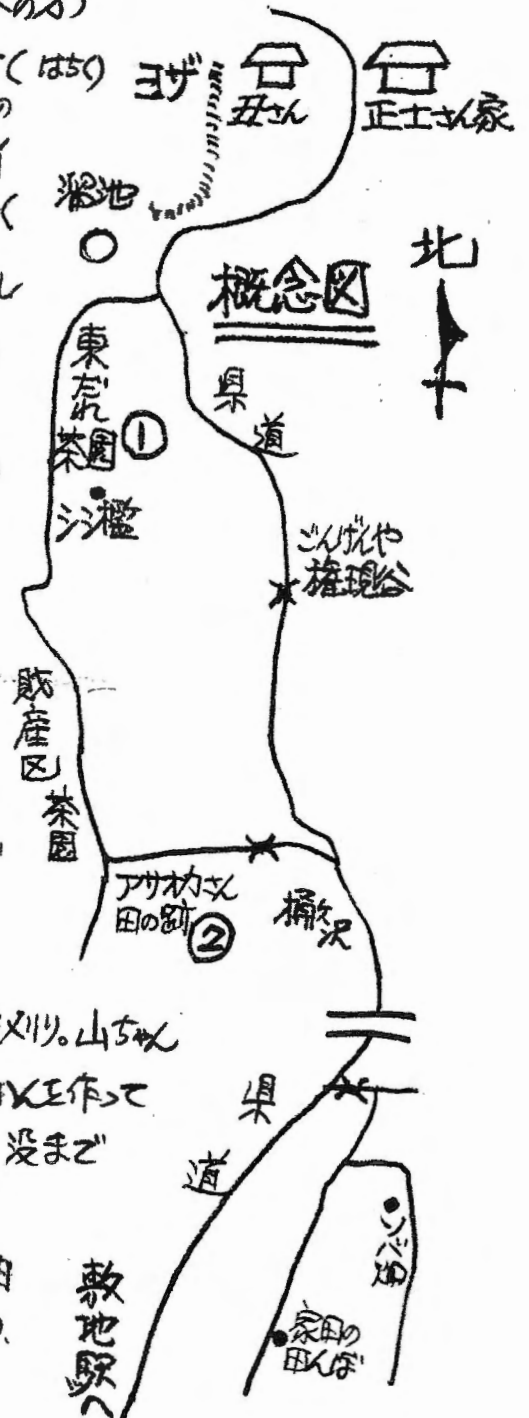
午後は二手に別れる。正士さんと英ちゃん茶園の整枝刈り。山ちゃん
 とぼくは、アサオカさんの田んぼ跡の草刈り。久米さんが水芋おこし作って
 くれて、皆でおやつ。その後、久米さん草刈り参加。あと、日没まで
 ヨザ(図最上部)の草刈り。

夕食は、里芋とこんにゃくの煮物、シラのバタ焼き、豚肉
 とナスのみそ炒め、フキとパプリカのマリネ、餃子(アサオカ製)、
 枝豆。この日、正士さん疲れ気味でソバはお休み。

25日(土)、快晴。久米さんもおわり、ヨザの草刈り。この日、トランプ大統領来日。「美
 い日本」はゴルフ場だけでないことを知らせようと思ったが、ここまでは来ないよね。

昼、康江さんの冷やし中華をたべて帰途につく。

次回、6月は久米さん竹中さんの住まいのある森町薄場で架橋作業の後、ホテル
 観賞の子定。



5/23~5/25 山仕事 (5月大平)



5/23 そば畑の草刈
アフター



5/23 家田の田圃畦畔
草刈アフター



5/24 桶ヶ沢
休耕田草刈
アフター



5/24 権現谷
県道路肩草刈
アフター



5/24 浅岡さん
転作田草刈
ビフォー
図面番号②



5/24 昼食
母の誕生祝い
特性稻荷寿司



5/24 東ダレお茶園整枝
図面番号①



5/24 ヨザ草刈
ビフォー
図面最上部

山仕事 橋を架ける

この度のねこの手作業「橋掛け」が無事終了しましたこと、誠に有難う御座いました。ここに厚く御礼申し上げます。

橋を架ける・・・、その経緯と作業当日感じた事を少しお話させていただきます。

私が今住んで居ります静岡県周智郡森町薄場地区は、小さな川を挟んで東西に分かれて家が点在しております。川は太田川に注ぐ瀬入川の源流になります。

十年近く前まではこの川を渡る車道は一つしか有りませんでした。(今は二か所)

私は二年前に古い家をお借りしてこの地に移住致しました。畑等もお借りして野菜や花木等の栽培手入れを日々の楽しみとしております。その畑の側にある川がその川瀬入川の源流になります。そして其処に小さな橋が架けてあります。何故こんな所かと思つて地元の方に伺つたところ、この橋の向こう(西方)に氏神様の若宮八幡様が在り、かつてはこちら側(東方)からの参道になっていたということでした。神社の一の鳥居は橋を渡つて行つた先に在ります。今現在は、誰も一の鳥居をくぐつて神社へは行っていないことになります。橋は五十年近く前に地元の方達の手により作られた物で今にも壊れそうな物でした。そこで橋を架け替えれば神社への行き来もでき、人の往来も楽にできるのではないかと竹中氏(家主)にお話ししたところ、猫の手の皆さんに応援をお願いしてはどうだろうか?ということになりました。

昨年二回、猫の手の皆さんに川周辺の整備をしていただきました。以前川辺に作った「ほたるデッキ」で昼食・休憩をしていただいたのを思い出します。その時来年は此処で蛍が見れたらいいですね・・・と厚正さんが仰つてくださり、一年前に日取りは決まっておりました。そして当日六月八日は雨の予報(降水確率90%)が・・・突然の晴れ!!竹中氏の緻密な設計提案による準備と猫の手の皆さんの阿吽の呼吸の作業。そして後方支援の食事支度等々全てが順調に進みました。夜の「ほたるを見る会」も盛会になり、待望の蛍もデッキまで飛んで来て・・・ケーナの音色も加わり歓喜 歓喜 でした。

橋 にはいろいろなもの・・・意味があります。

人体の脳の中にある橋。心の架け橋。明日に架ける橋。そして虹の架け橋アンタカラナ。地元の方に木を切つて頂き、当日までの準備も含め大変ご尽力いただきました。

無事に作業が済みました事、参加されました全ての皆様に、そして見守っていただいた全ての存在に感謝致します。重ねて有難う御座いました。

雑報読者の皆様、橋が出来上がりましたら是非見に来てくださいませ。

ささやかな 小さな ちいさな橋ではありますが、心よりお待ち申し上げます。

山仕事 6月①橋を架ける 久米さんメッセージ



6/8 森町薄場
太田川に注ぐ瀬入り川の源流
橋は写真の一番上の部分

ほたるデッキ遠景
暗くなると周りにホタルが！



ホタルを見る会会場
ほたるデッキ



夜はバーベキュー
サザエ、ブリ、エビ、トウモロコシ
など豪華食材
ほたるはすぐそばまでやってきました。

山仕事(6月、架橋とホテル)

6月7日(金)、くもり後雨。いよいよ梅雨入りか。

今回、伊藤(康)、原田、山崎、落合さんとぼくの5人。天浜線敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えられる。二手に別れる。康江、久米、原田、落合さんは買物、残りは正士さんちへ。しかし雨のため外へ出られず、山ちゃん「山福」へ行き、ぼくは家用に爪先の硬い地下足袋を購入。

18時、全員で「めだかの学校」へ。当初予定していなかったが、正士さんから誘われ、8名で出かけることになった。会場は、車で15分ほどの森町・一宮総合センター。夕食は、1000円で弁当が出るというのでお任せ。(会員は3000円。ぼくは見学組)

会場に着くと、もう殆どの人が集まっていた。受付で箱の中から番号札をつかみ出す。ぼくは55番で一番らしの席。全部で60人近くになるが、会員は総数百数十人とのこと。溝口久、伊藤英雄、松本芳廣、川島安一さんなど、知った顔も。

「めだかの学校」は変わったグループで、会員はみな平等。互いに「〇〇めだか」と呼び合う。年4回の開校日には、その都度、校長、教頭、用務員、給食係と担当を決める。唯一変らないのが、事務局長の榊原幸雄さん(バラめだか)だ。

授業に先立ち、給食係が用意した弁当による給食。持ちよった地元野菜が主体のようだ。その名も令和ご膳。

給食のあと、全員が立って校歌「めだかの学校」を斉唱。校長の訓話に続いて、一時間目は「社会」。静岡新聞の人らしい日比野雅彦先生の「メディアがとらえる『令和』」。二時間目は「国語」で、万葉集がらみの話。三時間目は「美術」で、「『令和』を描く」と、「令和」づくし。全体として「元号」や天皇について何の疑問も感じないようみえた。

授業が終わると新入会員(1名)の紹介。ついでぼくら「見学組」が正士さん(会員)を中心に前に出て、自己紹介。

さいごに、机と椅子を片づけ、全員が輪になって「今日の日はさようなら」を斉唱。ついで、輪のはじから順に全員が握手をしながらまわって去っていく。これは、いいね。この時になって尾上美智子さんと会い、新鮮なトウモロコシ「甘々娘(あまかんむすめ)」

◆めだかの学校伝言板◆

第104回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長/鈴木亜繪美

教頭/村松達雄

用務員/村松幸範

給食係/12名(代名、略)

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日/令和元年6月7日(金)6:20PMより

受付/大場敬子・大橋町代・秋山勝則・榊原幸雄(後見人)

26期通年テーマ:『今を感じつつ、新たな年は「ハヤブサ号」のように…』

今回のテーマ:《新元号「令和」を知ろう!「令和」になれよう!》

<時間割>●1時間目 社会 日比野雅彦 先生(浜松市)
「メディアがとらえる『令和』」

●2時間目 国語 山下智之 先生(浜松市)
「古典からみた『令和』」

●3時間目 美術 草笛由美子 先生(守山市)
「『令和』を描く」

●給食の時間~令和ご膳?~ 9:30閉校

を20本ほど頂く。大半は帰宅したようだが、泊まりがけで語り合う人も。始まって四半世紀になるそうだが、今どき珍しいアツイグループだ。

正士さんちへ戻って一杯。長芋のチーズ焼き、サバの塩焼き、カツオの刺身、落合さん持参のトマト。以前、落合さんの実家を豊橋市と書いたが、正しくは同じ愛知県岡崎市でした。失礼しました。

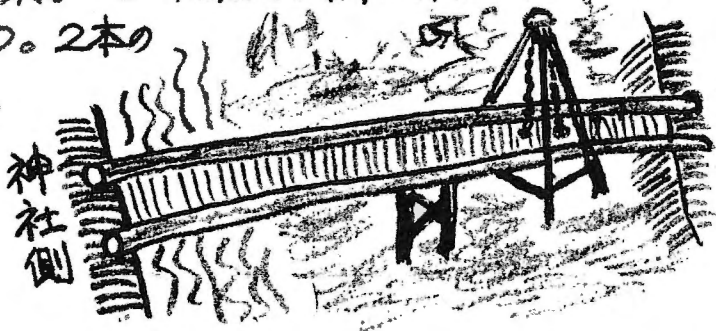
この日、東海から東北南部までの太平洋側は、梅雨入りとのこと。

6月8日(土)。前日の梅雨入りがウソのようにきれいに晴れた。どうやら今年の梅雨は、メリハリのきいた陽性のようだ。伊藤(馬)さんも加わり、久米、竹中さんのいる森町薄場(地元の人には「うすば」という)へ橋の架け替への手伝いに。

両側の間隔が6mほどの小川に架かっていた橋は、対岸の神社に通じるもので、半世紀くらい経過しているという。2本の

丸太を頼りにした幅1mほどの橋だ。

2本の丸太はまだ強度が残っているが、踏み板(っていつの頃?)はボロボロで足を置いたらまっかひなく落ちる。そのため、その上に細長い板を置いて寝るようになっている。かわりの丸太が2本、竹中さんたちの手によって用意されていた。その丸太は、鉄パイプと三角に組んで滑車とチェーンで吊るされているが、図が煩雑になるので省略した。



作業はまず古い橋の解体だ。腐った踏み板を、バールで釘をぬきながら外していく。残った2本の丸太は、持ち運べる大きさに切断する。まん中の橋脚は防錆処理した電柱を使っているようで、まだ強度がなるのでそのまま再利用することにした。これで古い橋は姿を消した。

こうした手順は、すべて竹中さんが考えたものだ。両側で丸太をのせる鉄杖は台座?の両脇に丸太の径に合わせて固定するボルトのための穴が明けてある。その後



も作業が進むにつれて計画が次々と明らかになっていくが、その緻密さにおどろく。仄聞するところによると、プラント関係の仕事をしているようで、納得。

昼食は流しそうめん。なにやら、山ちゃんのつボイヤキをきいた竹中さんが仕掛けを作られたそうで、竹を割って節をとりにった桶、それを受ける2本の足、水を流す蛇口まですべて準備されていた。そうめんにのせる玉子焼きやシタケのほか、豆腐サラダ、手作りメンマ、ナメコのほろし和之、切り干し大根のオムレツ

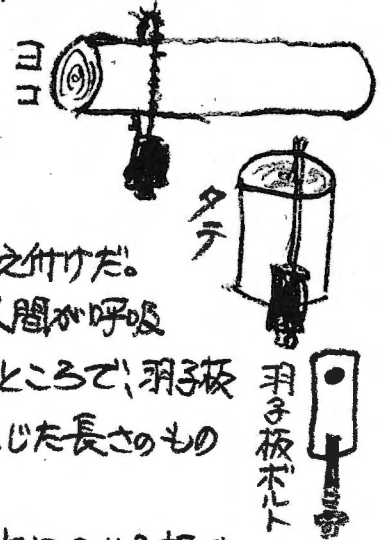
煮は久米さんが用意された。彩りを添えるトマトは、伊藤恵一郎さんの持参だ。



何もの人が竹の桶に沿って並び、どうめんが流される。上流社会に縁のないぼくは、末端のザレに落ちたどうめんを拾って食べた。

午後は、新しい丸太の据えつけにかかると。二本の丸太は太さが違ひ、一本の丸太でも元口(もとぐち:根に近い方)と末口(すえぐち:梢に近い方)では太さが違ふ。その二本を並べたときに段差が生じないよう、竹中さんが計算して墨付けをしてくれた線に従って、余分なところをチェーンソーで切り欠く。

手挽きの鋸は、タテ挽きとヨコ挽きがあるが、チェーンソーは本来、せい方向と直角に切るヨコ挽き用。タテには使いにくい。そのため、タテ挽きでは少し狂いが出た。



次いで、兩岸のコンクリート護岸に置いた鉄杖への据え付けだ。竹中さんがチェーンブロックを操作して浮かした丸太を、兩岸の人間が呼吸を合わせて動かして鉄杖にのせる。鉄杖にあけた穴に合ったところで、羽子板ボルトを使って固定する。その羽子板ボルトも、各箇所に応じた長さのものが用意されていた。

かくて17時頃、二本の丸太は兩岸に固定された。その上にのせる板は、竹中さんが購入した製杖機で、別の丸太から製杖される予定だ。

一段落したところで順次、久米さんの風呂場でシャワーを使わせてもらう。

その間、川岸のスギ林に造られたデッキでは、バーベキューの用意が進んでいた。うす暗くなったところで会場へ。竹中さんのお姉さん林玲子さんや、竹中さんのご子息一家とその友人家族も加わり、総勢20人くらいになるうか。

久米さんの音頭でカンパイ!! バーベキューは海鮮(サザエ、ブリ、エビなど)を主体にトウモロコシなど。ほかに夏野菜のさっぱり漬け、キチャブキなども。

すっかり暗くなると、ホテル待ち。なかなか現れず、くらやみに目を凝らす。...と、「一番にみつけ!」と久米さんが声をあげる。一匹の小さな光が空間を漂う。しばらくすると、一匹、二匹と姿を現わす。数は少ないが、それはそれでよい用もめだった。

久米さんに促され、英ちゃんがケーナを演奏する。音が声と合する。よい夜だった。

正士さんちに戻り、運転のためのめなついた正士さん、若林さんと固んで一杯。ぼくは疲れて半分居眠り。でも、楽しい一日だった。

6月9日(日)、小雨。梅組、竹組、草組に別れて作業。梅組は、杉浦シェフと康江、落合、正士さんが梅の収穫。竹組は、山ちゃんがお茶摘みパーティーで使った数十本の竹を燃す。英ちゃんとぼくは、東垂れの草刈り。

昼は久米さんも見えて定番のカレー。0.2本の歯が痛くてかじれないトウモロコシを、康江さんが色丁で粒をはずしてくれた。

正士、久米さんに見送られ、康江、落合さんは「たま」、残りは各停で帰宅。

字が右とがりの子は、ネムかったから。

6/7~6/9 山仕事 (6月②架橋とホタル)



6/7 めだかの学校参加
事務局長の榊原幸雄さん

給食当番の皆さんの
手作り弁当



6/8 古い橋の上に新しい柱が



古い橋の撤去作業



昼食の流しそうめん



昼食風景



橋げたの固定作業



橋桁の固定完了
この橋桁に横板を打ち付け
れば新橋の完成。